

文章題テスト・小説(1)

月 日
名 前

10
問正解

★ つぎの文しようを読んで、後のもんだいに答えましよう。

ある日、あゆむが学校から帰つてくると、後ろから、りかと和子かずこが追いかけてきて、りかが声をかけました。

「あゆちゃん、ちよつと待まって。たのみたいことがあるのよ。」

「どんなこと？」

立ちどまったあゆむに、和子が言いました。

「あのね、このごろ、としゆきくんたちがわたしのことをチンパンジーってよぶでしょう。わたし、あしたの学級会がっきゅうかいでそのことを言うから、あゆちゃん、おうえんしてね。」

「たのむわ、あゆちゃん。」

と、りかも言いました。

「うん、おうえんするよ。」

あゆむは女の子にたよりにされたので、

《 》、むねをそらして引きうけました。

そのつぎの日の学級会の時間、あゆむが待っていると、いよいよ、となりのせきから、和子が立ち上がって言いました。

「わたしのことをチンパンジーという人がいるけど、わたしのどこがチンパンジーににてるんですか。」

3 とたんに、としゆきが言いました。

「ひたいのところ、よくにてるよ。」

本田ほんだくんも言いました。

「口のところなんか、そっくりだよ。」

「はあい、まゆ毛のところ。」

なん人もの子が、あそこもにている、ここもにている、と口ぐちに言い出しました。和子はまっ赤かになってつぶやきました。

4 「しまった。言うんじゃなかったわ。」

その顔は、ちつともチンパンジーにはにいていません。

あゆむは、ぱつと手を上げました。

「はい、あゆむくん。」

あゆむは立ち上がってしゃべりました。「和ちゃんがチンパンジーににてるんだったら、ぼくたちみんなチンパンジーににてるよ。ぼくたち、チンパンジーと親るいだもんな。だから、和ちゃんのことをチンパンジーというのは、おかしいんだ。」

そのあと、りかが言いました。

「人をあだ名でよぶのは、よくないと思います。」

そこで、学級会は、和子をチンパンジーというあだ名でよばない、ということがきまりました。

(古田足日「だんち5階がぼくのうち」より)

(注) 親るい…同るい、同じようなもの



